

IV インタラクティブな統合的学習活動の実践

(1) なぜ、統合的な学習活動が必要なのか

現行学習指導要領において、「聞く・話す活動」に重点を置いた「実践的コミュニケーション能力の育成」が求められ、言語材料をもとにした様々な対話活動やアクティビティーが、教科書以外の活動の中で多く取り入れられるようになった。しかし一方で、「ある文法や構文を学習した直後のドリルではほぼ満足できるレベルにあると思われるが、テーマや場面を与えられると、どのような文法や構文を使ったらよいのか混乱が生じるようである」(鶴岡重雄,『すぐれた英語授業実践』p.140: 大阪府立東寝屋川高等学校)といった指摘がある。教育課程部会「これまでの審議のまとめ」(平成19年11月)でも、現行の英語教育を見直した結果として、

『中学校・高等学校を通じて、コミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力が十分身に付いていない、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力が十分身に付いていない状況なども見られる。』とし、中学校英語の課題として、①語彙や文構造を活用する力、②まとまりのある一貫した文章を書く力、を挙げた。

現行の教科書シラバスはかなり細分化されており、各単元内で様々な言語活動が行えるように工夫されているが、それだけでは実際の対話場面で、臨機応変に学習した内容を活用する力は身につかないと考える。

そこで、いくつかの単元のまとめとなる統合的な学習活動を取り入れ、これまで学習した内容をフルに使って、インタラクティブにやりとりする活動を行う必要がある。

ただしかし、年間に数回きりのコミュニケーション活動では、どうしても単発的活動になりやすく、前回の活動で自己課題を発見しても、それを生かしきることができないことが多々あった。コミュニケーション活動が効果を生むためには、生徒がその日の目標を達成できたかどうかを確認し、それに基づいて改善していくステップを、授業の中に入れる必要がある。

そこで、静岡大学教育学部英語教育科の三浦孝教授(2006)の研究を参考に、自作ポスターや picture book を用いた継続的プレゼンテーション活動を、単元のまとめとなる統合的学習活動として実践してきた。継続的プレゼンテーション活動とは、通常1回分のプレゼンテーションの内容を4回に分割し、10～15分の所要時間で継続して行う活動を表す。

これにより、生徒の改良の機会を増やすとともに、生徒にも教師にも活動の慣れを生み、短時間でも密度の濃い活動を行うことができる。

継続的活動の意義

- ア. 同じ活動を繰り返すので、活動の事前説明の時間が節約できる。
- イ. 同じ活動を繰り返す中で、生徒が次回の見通しを持って、工夫して臨むようになる。
- ウ. 同じ活動を繰り返す中で、教師がアクションリサーチ的に問題点を見いだし、改良を加えられる。

(平成18年度静岡大学教育学部研究報告・教科教育学編、三浦2006)

また、生徒が個人目標を設定する上で、目指す姿を明確にするために、「コミュニケーション行動目標」を提示し、それに基づいて目標をもたせ、評価してきた。

次頁に掲げるのが、「コミュニケーション行動目標」である。

●「コミュニケーション行動目標」

年	話し手として	聞き手として
3	<ul style="list-style-type: none"> 聴衆が知らない語句は、既習語で <i>paraphrase</i> して伝えることができる。 一方的にまくしたてるのでなく、聴衆とのインテラクション(質疑応答)を図りながら話を進めることができる。 聴衆に問い合わせ、返事を求めることができる。 全ての部分を平板に話すのではなく、重要な部分をゆっくり、大きく発話し、必要ならば繰り返し聞かせることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話題に関して、発表者に関連質問をして話を活性化することができる。 話を理解していないときに、<i>interrupt</i> して説明を求めることができる。 発表者の問い合わせに対して積極的に応答を返すことができる。 話者コントロール発言(Could you speak up?)を使うことができる。
2	<ul style="list-style-type: none"> <i>Do you understand?</i>など、聞き手の理解をチェックし、<i>Yes</i> の返事がなければさらに丁寧に説明する。説明で窮した場合は、教師に <i>paraphrase</i> の援助を求めることができる。 聴衆が知らない語句は絵やジェスチャーなど非言語的因素を用いて伝えることができる。 <i>OK?</i>など、聴衆に理解を確かめながら話すことができる。 既習の基礎的な表現を用いて、原稿ではなく、聴衆を見て話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 分からぬ部分を発表者に聞き返すことができる。 発表者の発話に対して、簡単な感想を述べることができる。 分からぬとき、<i>I don't understand.</i>と表明できる。 発表者の発話に対してあいづちをうつことができる。
1		<ul style="list-style-type: none"> 発表者の問い合わせに、<i>Yes/No</i> で応答できる。 発表者を見て聞くことができる。

* 参考資料(三浦孝, 2007英語教育5月号, 「中高大連携の柱は英語力中心でよいか」), 表の下から上へと発展的に積み上げる。

(2) 統合的な学習活動の実践例(2年生)

2学期:『私のリゾート開発紹介!』(各10分×5回)

言語材料

- There is (are) ~.の文
- I think (that) ~.の文
- 不定詞(名詞的用法・副詞的用法・形容詞的用法)
- 動名詞
- S + V + O + Oの文型
- 五感を表す動詞を用いた文(sound / look / taste)

・統合的学習活動の概要

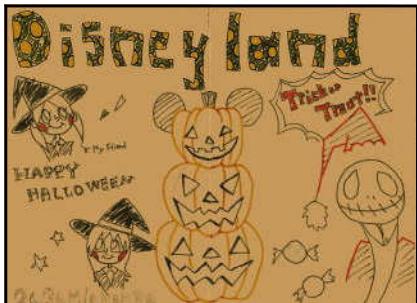
世界中の自由な場所(洋上・宇宙空間も可)をリゾート地として開発することを想定し、自分ならどのような施設をそこに設置するか考え、発表し合う。発表は3人グループで行い、発表者は、Q&Aをまじえて *interactive* に発表を進める。聞き手にまわった人は、発表に関する質問をしたり、感想を述べる。全ての発表が終わったら、グループ内で最も優れていた発表を1つ決定する。

イベントの進行	イベント設定の理由	終了後の感想と反省
①準備:生徒各自に四つ切り画用紙を配る。宿題として、stage1に、リゾート地を開発する場所とその理由について絵を描くよう指示する。また、絵ができるだけ大きく描くよう指示する。	①既習事項である There is (are) ~.の文は、「~が…にあります、います」のように、周囲の状況を説明する文であり、どのようなものがどこにを紹介するのに適している。実際の観光地では、正確な位置を把握するための調べ学習に時間を必要とするが、自分なりのリゾート地開発であれば、位置は自分で決めることができる上に、オリジナリティーを發揮することができる。	①ペアでの対話活動では、聞き手がかなりつっこんだ質問をしないと盛り上がりがないことから、再度4人組で対話を行いたいという生徒からの要望があった。一方で、4人組での対話活動では、聞き手として対話を盛り上げられる生徒と、あまり積極的になれない生徒が生じてくると感じた。
②第1回:「リゾート地の場所」 Stage1について、やりとりしながら英語で発表する。	④既習事項である不定詞の文は、want+不定詞で「~したい」と自分がその場所でしたいことを説明する文である。また、不定詞の形容詞的用法で施設の利用目的を説明したり、副詞的用法で行動の目的を説明したりすることができる。	②同じ生徒でも、対話する相手によっては盛り上がりに欠けたりすることもあった。
③第2回:「リゾート地にある設備」 Stage2について、どのような施設が開発地のどの場所にあるのか、やりとりしながら英語で発表する。	⑦既習事項である動名詞の文は、「~することが好きだ」と好みを伝えたり、「~することを楽しめるよ」といったアピールをするのにふさわしい文である。	③活動後の感想から、より詳しく表現する方法(後置修飾に関わる部分)を知りたいという意見が出された。来年度の学習につなげていきたいと感じた。
⑤第3回:「各施設」 Stage3について、どのようなことがそれぞれの施設でできるのか、やりとりしながら英語で発表する。	④オリジナルのリゾート地を開発するという設定にすることで、「実際の場所を深くは知らないのでやりとりが中断する」ことなく対話を進めることができる。	
⑥第4回:「私のリゾート開発」 Stage4について、こんな点が優れているというアドバントエージを、やりとりしながら英語で発表する。		
⑧第5回:全体発表会とランキングの実施 優秀者が、Q&Aを交えて発表を行う。全発表が終わったところで投票を行い、Best Idea賞、Best English賞、Best Performance賞を選出する。(1時間)		

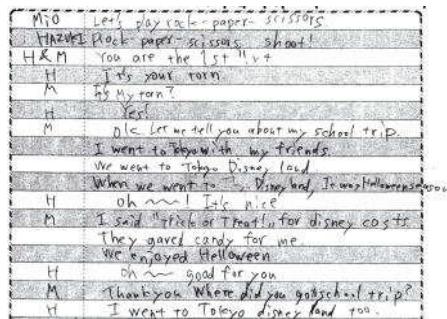
(3) 統合的な学習活動における生徒のあらわれ 『My Trip ~私にとって思い出深い旅行~』より

①発表時のポスターと発表内容

【第1回目】



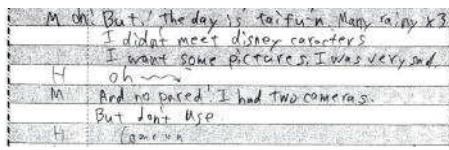
1回目は、過去に行った旅行先の中で、最も思い出に残っている場所について話した。家族旅行、修学旅行、友達との旅行など様々な思い出を語った。運営面でも英語で対話している様子が分かる。



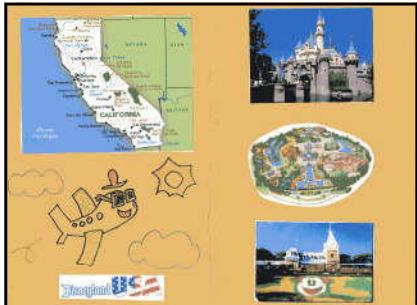
【第2回目】



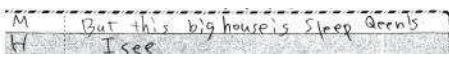
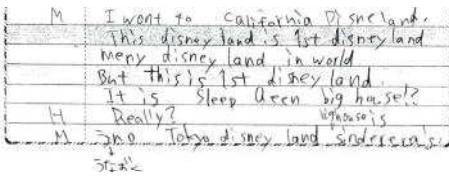
2回目では、その旅行中に起こったハプニングや、「こんな出来事があったんだよ！」という思い出について話した。例では、ちょうど台風が来たためにディズニーキャラクターに会えず、パレードを見ることもできなかったということについて語っている。他にも、様々なユニークな話が出されていた。



【第3回目】



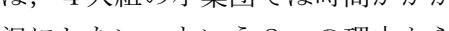
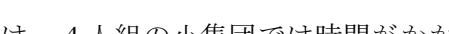
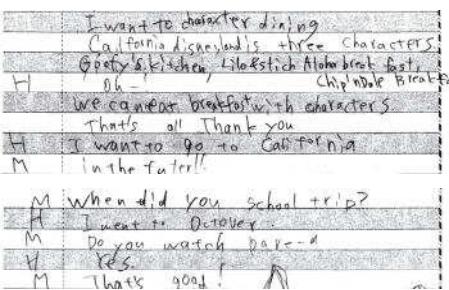
3回目では、夏休みに行ってみたい旅行先について話した。旅行先は地名だけでなく、施設名でも可とした。また、その場所についての具体的な説明をするように指示した。例では、California Disneyland はシンデレラ城ではないということで、聞き手が驚いている様子がうかがえる。



【第4回目】



4回目では、その旅行先でやってみたいことについて話した。例では、キャラクターと一緒に朝食を食べたいと述べているところである。最後まで、聞き手と対話しながらやりとりを進めている様子がうかがえる。



この対話活動では、ペアによる対話活動として実践した。それは、4人組の小集団では時間がかかりすぎてしまうこと、どの人も必ず対話に参加せざるを得ない状況にしたい、という2つの理由からである。積み上げ式のプレゼンテーションでは、4つの具体的な場面を提示できるので、生徒からは「発表内容を作りやすい」という意見もあった。教師側から見ると、「この場面ではこの文法事項が有効に使えるだろう」と予想し、対話文のひな形を提示することができるという利点があった。

②プレゼンテーション生徒作品

【生徒が描いたpicture book】



【生徒の対話内容】

Reflection Sheet

Class 1 No. 4 Name: Gonda Tai	
K	You're the first.
T	I went to Okinawa.
	Okinawa's sea is beautiful.
	It's emerald green.
K	Sea is green!?
T	Yes. It's very beautiful!
K	You're picture is very nice.
T	I went to Okinawa's restaurant with my family.
	When we ate dinner, we met Yamori.
	It's on the wall.
	My mother is very panic.
	And my sister is very panic.
	Yamori falls.
K	7/12/11
T	My mother and sister is very very panic.
	I'm going to go to China.
	I'm going to play table tennis with my clubmember.
	And I'm going to eat Chinese food.
K	What do you eat?
T	I will eat Chinese fried rice.
K	It's normal.
T	Japanese Chinese fried rice is false.
	But Chinese Chinese fried rice is the real thing.
K	7/12/11
T	That's all thank you.

③対話で見られた生徒の表れ

〈J-Eカードの表現を対話に取り入れている生徒〉

S But they said 'Let's ride roller coaster'
R It can't be helped.
S I rode roller coaster
S I sat down. OK?
R It was fate
S I was afraid.
R Did you say 'help me'?
R I'm sorry.
S Third I want to visit to the world.
R Oh, that's nice.
S Thank you.

〈分からぬ表現を確認している生徒〉

Risa We saw very beautiful scenery.
Kanoko Pardon?
Risa Scenery.
Risa Road? Is it road?
Kanoko It's keshiki.

〈伝わらない表現を説明している生徒〉

This town is world Heritage site.	
Itikawa	What?
Katsuma	World Heritage site.
Itshikawa	Could you speak up?
Katsuma	OK. World Heritage site.
Itikawa	Yakushima and Himeji.
	Oh, I see.

〈聞き手が理解しているか確認している生徒〉

S In front of?
R In front of.
S Oh
R You see?
S I see.
R Really?
S Yes.
R Do you understand?
S Yes. I do.

④対話で見られた生徒の表れ

この前よりも深くて時間がかかる事
がない話ができました。
すごく樂しかった!!
「いが盛り上がったので、次はもっと話
発展させてい!!

わからぬい部分は、一生懸命言いたくて伝えることができた。聞き手としてもう少し、わりこんで、質問で「えといいなー」と感ほけた。でも伝えないと、スムーズに伝えられたので、すうとうござる。これからも日本語を使はずに、ENGLISHで会話するとます。絶対に日本語を使わないで、自分で今持っている力で、会話したいです!!

⑤ペアからのアドバイスカード

- 国会議事堂を Japanese White House と言いかえをして良いと思った。
- 1つ1つの事柄が、縦と組み合わせてまとまっていたので、こればかりやすかった。

話の内容から面向て、まさにそれが「あり」
か「ない」どちらか、聞えられて、「うそは」やめて!!
「うそは」で「つら」いからなので、うそはうそ
も、と話者を control (うそは) いふと思ふ
内容がたくさんあってよがった。私がちからでうそをきいてみて
よがった。私をややちいふにひざにのせておいたり、顔をさし
ながらうなづくとおちでよがつて、聞え手といつも、もうちょっと
ちからでうなづくとおちでよがつて、うそはうそ

(4) 統合的な学習活動における単元構成・指導略案

① 各課の言語材料(文型・文法)

L	S	Grammar	Key Points
4	①	there構文 There is a cup on the table. There are cups on the table.	「…に～があります [います]」と説明するとき
	②	there構文の疑問文 Is there a cup in the box? —— Yes, there is. / No, there is not.	「…に～があります [います] か」とたずねるとき
	③	接続詞のthat I think (that) Koji is kind.	「わたしは～と思う」などと説明するとき
5	①	不定詞の名詞的用法 I want to travel around the world.	「～すること, ～になること」と説明するとき
	②	不定詞の副詞的用法 Koji went to the park to play soccer.	「～するために」と目的を説明するとき
	③	不定詞の形容詞的用法 I have some books to read.	「～するべき…, ～するための…」などと物事を説明するとき
6	①	動名詞 I like playing soccer.	「～すること」と説明するとき
	②	目的語を2つとる動詞 I will give you a card.	「～に…をあげます」などと説明するとき
	③	動詞+形容詞 You look happy.	「～のよう見えます」などと様子を説明するとき

題材としては、Lesson4 「Ainu」でアイヌ文化やアイヌ語の現状について、Lesson5 「Speech – ‘My Dream’」では、将来の夢について、Lesson6 「Ratna Talks about India」では、多言語の国、インドについて扱っており、Lesson5 は英語によるスピーチの形式をとっています。また、Lesson4 と 6 にはプレゼンテーションの形式で、学習した内容をクラス全体に紹介している場面があります。これらの中には、discourse marker(談話標識)が用いられており、話し手が今行っていることと、すでに言及されていること、あるいはこれから言おうとしていることとを結びつける方策が示されています。

【Lesson4】 断定をやわらげたり、訂正することを示す標識… I think (that)

論理的帰結を示す標識… so

【Lesson5】 構造を示す標識… first, second, third

論理的帰結を示す標識… then

【Lesson6】 例を挙げるのに用いられる標識… for example

譲歩と反論を表す標識… if

*分類はオックスフォード実例現代英語用法辞典による

そこで、J-E Card や Short Dialog などを通してこれらの discourse marker の定着を図り、英語らしく分かりやすい文章を自分の発話の中に盛り込んでいくことができるようにしていくことが大切であると考えます。

昨年度までの2年生における実践では、「夢を語ろう！」や「グループ旅行プラン作成」などで、自分の行きたい場所やそこでやれることなどを対話する統合的学習活動を中心に行ってきました。しかし、相互理解を深めようと、聞き手が積極的に質問すればするほど、話し手が知らないことが多くなってしまいました。それは、「実際にある場所」をもとに対話を構成するからです。だからと言って、話し手が充分その場所について知っている状態にするには、かなりの時間を要してしまいます。

そこで今年度は、テーマを『私のリゾート開発紹介！』とし、架空のリゾート地を自分なりに考え、それについて紹介したり、応答したりする活動を行おうと考えました。この活動では、自分なりにリゾート地についての詳細を設定することができるため、生徒は自らの想像力を生かして発表することができます。また、対話時には絵を提示しながら行うので、英語が苦手な生徒も、発想のユニークさや素晴らしい絵など、一人ひとりがもつ様々な力を生かすことができると考えました。

② 統合的学習活動までの単元の授業構成

月(日)	Lesson	主な言語材料
9月 (9h)	Lesson4 Ainu	<ul style="list-style-type: none"> • There is (are) ~.の文 • I think (that) ~.の文
10月 (10)	Lesson5 Speech-- 'My Dream'	<ul style="list-style-type: none"> • 不定詞(名詞的用法・副詞的用法・形容詞的用法)
11月 (3h)	Lesson6 Ratna Talks about India	<ul style="list-style-type: none"> • 動名詞 • S + V + O + O の文型 • 五感を表す動詞を用いた文 (sound / look / taste)
Event:『私のリゾート開発紹介！』(5時間)		
<p>・統合的学習活動の概要</p> <p>世界中の自由な場所(洋上・宇宙空間も可)をリゾート地として開発することを想定し、自分ならどのような施設をそこに設置するか考え、発表し合う。発表は3人グループで行い、発表者は、Q & Aをまじえて interactive に発表を進める。聞き手にまわった人は、発表に関する質問をしたり、感想を述べる。全ての発表が終わったら、グループ内で最も優れていた発表を1つ決定する。</p>		
<p>・設定の理由</p> <p>①既習事項である There is (are) ~.の文は、「～が…あります、います」のように、周囲の状況を説明する文であり、どのようなものがどこにを紹介するのに適している。実際の観光地では、正確な位置を把握するための調べ学習に時間を必要とするが、自分なりのリゾート地開発であれば、位置は自分で決めることができる上に、オリジナリティーを発揮することができる。</p> <p>②既習事項である不定詞の文は、want+不定詞で「～したい」と自分がその場所でしたいことを説明する文である。また、不定詞の形容詞的用法で施設の利用目的を説明したり、副詞的用法で行動の目的を説明したりすることができる。</p> <p>③既習事項である動名詞の文は、「～することが好きだ」と好みを伝えたり、「～することを楽しめるよ」といったアピールをするのにふさわしい文である。</p> <p>④オリジナルのリゾート地を開発するという設定にすることで、「実際の場所を深くは知らないのでやりとりが中断することなく対話を進めることができる。</p>		
<p>・統合的学習活動の進行</p> <p>①準備:生徒各自に四つ切り画用紙を配る。宿題として、stage1に、リゾート地を開発する場所とその理由について絵を描くよう指示する。また、絵はできるだけ大きく描くよう指示する。</p> <p>②第1回: stage1、「リゾート地の場所」について、やりとりしながら英語で発表する。</p> <p>③第2回: stage2 で「リゾート地にある設備」について、どのような施設が開発地のどの場所にあるのか、やりとりしながら英語で発表する。</p> <p>④第3回: stage3 で「各施設」について、どのようなことがそれぞれの施設ができるのか、やりとりしながら英語で発表する。</p> <p>⑤第4回: stage4 で「私のリゾート開発」について、こんな点が優れているというアドバンテージを、やりとりしながら英語で発表する。</p>		
<p>・統合的学習活動終了後</p> <p>①発表会の様子をビデオ、ボイスレコーダーで撮影、録音しておき、J-E Card 等の活動が有効であったかを検証する。</p> <p>②意識調査を継続的に実施し、生徒の意識面での変容を検証し、統合的学習活動の実施が生徒の意欲の向上につながったかを検証する。</p> <p>③発表会とランキングの実施</p> <p>各グループ最優秀者が発表を行う。全発表が終わったところで投票を行い、Best Idea 賞, Best English 賞, Best Performance 賞を選出する。(1時間)</p>		

③ 活動の手順(所要時間各10分)

ア 4人組で活動する。宿題として与えた絵を提示しながら、一人ずつ発表していく。発表の時には、以下の5点を徹底しておこなう。

- ・コミュニケーション活動における、個人目標を確認する。
- ・原稿を作成しない。
- ・発表は interactive に進める。
- ・対話はボイスレコーダーに録音する。
- ・4人のうち1人は reviewer として対話に関する評価を実施する。

イ 全ての生徒が話し終わったら、reviewer からの評価を互いに伝え合う。その際、主に良かった点について伝えるようにし、改善点があればアドバイスするようにしていく。

ウ 教師は、対話が上手にできている生徒やグループを見つけておき、良かった点について紹介する。このようにして優れた発表をクラスに還元することで、全体の質を上げることができると考えた。

エ 4回目(最終回)のプレゼンテーションが終わったところで、最も良い発表をした生徒をグループ内で1人選ばせる。そして、それらの生徒によるプレゼンテーションを次時に行い、Best English 賞、Best Idea 賞、Best Performance 賞などの決定をおこなう。

1つのプレゼンテーションを一度に完成させるのではなく、上記ア～エのサイクルを4回に分けて実施し、内容を徐々に積み上げていくことで、発表者に「慣れ」と「改良のチャンス」を確保させ、聞き手には十分な対話のチャンスを生み出そうと考えた。

④ 発表内容

【第1回目】

1回目は、stage 1 についての発表をおこなう。今回のプレゼンテーションでは、「リゾート地の場所」について、なぜその場所を選んだのか、その理由も含めて紹介する。

また、第1回目のプレゼンテーションにおけるキーセンテンスとして、

- ①Let me tell you about ~. ②I think (that) ~. を紹介する。

【第2回目】

2回目は、stage 2 についての発表をおこなう。stage 2 では、「リゾート地にある設備」について、どのような施設が、どの場所にあるのか紹介する。

第2回目のプレゼンテーションでは、キーセンテンスとして、

- ③There is(are) ~. を紹介する。

【第3回目】

3回目は、stage 3 についての発表をおこなう。stage 3 では、「各施設」について、どのようなことがそれぞれの施設でできるのか紹介する。

第3回目のプレゼンテーションでは、キーセンテンスとして、

- ④It(They) is(are) ~ to … を紹介する。

【第4回目】

4回目は、stage 4 についての発表をおこなう。stage 4 では、「私のリゾート開発」について、こんな点が優れているというアドバンテージを紹介する。

第4回目のプレゼンテーションでは、キーセンテンスとして

- ⑤You can enjoy ~ing. を、またキーワードとして、

- ⑥first, second, third / so / then / for example / if

などの discourse marker を紹介し、発表の際に用いることができるようとする。

⑤ 本時の授業について

ア 本時の目標

- ・自分の発表をよりよくするための方策を考え、リゾート紹介の発表を interactive に進めようと積極的に取り組もうとすることができる。 (関心・意欲・態度)
- ・Q & Aを交えて自分の考えたリゾート開発を紹介でき、友人の発表に対して進んで質問したり応答したりすることができる。(表現)

イ 授業構想

本校では、円滑なコミュニケーション活動を行うことができるよう、J-E Card や Situation Practiceなどを、授業の初めの短時間に継続して実施してきた。これらは主に speakers に焦点をあてた活動といえるが、これまで生徒のコミュニケーション活動を見てきた中で、痛感しているのは、「いかにして good listener を育てるか」ということである。

インタラクティブな対話を行わせるための教師側の準備として、聞き手が思わず対話に参加したくなるようなトピックを設定することは、大変重要である。しかし、それだけでは充分とは言えない。それは、意欲の面では楽しく参加することができても、実際の対話が受け身であれば、インタラクティブな対話とは言えないからである。

そこで本時の授業では、コミュニケーション活動を行う前に、"Active Listening"をおこなう。これは、教師側で用意した小話に対して、listener ができるだけたくさん質問するようにする基礎訓練である。質問することだけに焦点をあてるため、生徒は「どのような疑問文を用いればよいか」、その variety を増やすことができる。また、回数を記録していくようにするため、「前回よりももっとたくさん質問しよう」とする。こうすることで、沈黙場面を作らず、素早く対話に参加できる力を身につけたいと考えた。

今回の発表は、4回に分割したプレゼンテーションの、全体を通して発表する最後の対話活動になる。そこで、学級で決めた「互いが楽しめるプレゼンとは?」と、最初に設定した個人目標を再度確認させ、これまでの改善点を振り返りながら、今日の対話における具体的な課題をもたせることが必要になる。Active Listening が終わったところで、再確認する時間を設定した。

生徒にとっては、「どうすれば聞き手を巻き込むインタラクティブな発表になるか」を言葉で理解するよりも、実際に目で見た方が、イメージしやすくなる。そこで、発表直前に教師によるデモをおこなう。

プレ発表会の中では、質問する側よりも、それに対して答える側の方が返答に詰まってしまうことが多く見られる。そこで教師は教室内を巡回し、主に発表者を援護する形で対話に参加していく。難解語を言い換えたり、ジェスチャーなどでイメージさせたり、生徒の思いを代弁してみせたりすることで、できるだけ沈黙場面を作らずに対話を進めることができるよう、支援していく。

発表会終了後は、個人目標に対してどうであったか、何が良かったのか、どうすればより良くなるのかを、reviewer からの評価をもとに考えさせる。また、対話が上手にできていたグループについて、どんな点が良かったのか、教師が紹介をしていく。これらの活動を通して、生徒に今後の課題をつかませていく。

最後に、4人組の中で最も良い発表ができた生徒を1名選び、その代表生徒の発表について、改善点を話し合わせる。そして、次時のクラス発表会で最も良い発表ができるよう、グループ内で練習をおこなわせていく。

授業終了後は、reviewer の評価と今後の課題について記入したワークシートを回収し、コメントをして返却していく。

ウ 授業過程

学習活動	時間	活動内容	留意点及び評価規準
1 Greeting	1	○今の気分について問答する。 ○ Small Talk	○リラックスした雰囲気作りを心がける。
2 Warm-Up ○ active listening practice	5	Active Listening ○4人グループの1人が、speakerとして小話を述べる。2人はlistenerとなり、話に対してできるだけ多くの疑問文を述べる。1人はrecorderとなり、誰が何回質問できたらかを記録する。	○speakerの小話は、事前にこちらで用意しておく。 ○recorderは何回質問できたかを記録し、その回数を競わせる。
3 Review ○ interactiveな発表のために	1	よりよい発表に向けて ○「互いが楽しめるプレゼンテーション」とは何か、また、その実現に向けて設定した個人目標を再確認し、これまでの改善点をもとに今日の対話で意識していくことをイメージする。	○「互いが楽しめるプレゼン」は事前に学級で決定。 1. 楽しく、テンションを上げよう！(笑顔で・目を見て) 2. 聞き手を意識した文・内容にしよう！(難易度・魅力) 3. お互いのやりとりを大切にしよう！(応答・相づち)
4 Demonstration ○教師による発表のデモを行う	3	interactiveな発表とは？ ・interactiveな発表とはどのようなものか、生徒がイメージできるようにデモを行う。	○聞き手を巻き込みやすい質問などを示す。
5 Pre-Rollout ○プレ発表会の流れについて確認する ○プレ発表会を行う ○全体発表会に向けて、各グループ内で代表者を1人決定する	20	プレ発表会の進行 ・各グループごと発表を行う。 ・発表者、聞き手ともにQ&Aや感想などのやりとりを交えながら発表を進める。 ・reviewerは視点に基づいて評価を行う。 ・全員の発表が終わった後、reviewerからの評価を伝え合う。 ・終わった所で、グループ内のBest Speakerを決定する。 発表会のルール ①自分が立てた目標の実現を目指す。 ②原稿を作成しない。 ただし、keyword sheet(次のトピックが何であったか思い出せるように、単語レベルの記述がされているカード)だけは見てよい。 ③発表はinteractiveに進める。 ④対話はボイスレコーダーに録音する。 ⑤4人グループのうち1人はreviewerとして対話に関する評価を実施する。	・reviewerのコメント視点 ～コミュニケーション 行動目標をもとに～ ①「互いが楽しめるプレゼン」であったか ②speaker / listenerとして良かった点・改善点 ③発表全体で参考にしたいところ ④より良くするための、内容に関する改善点 ・教師は教室内を巡回し、主に発表者を援護しながら対話をスムーズに進めることができるよう支援する。 ・Q&Aを交えて自分の考えたリゾート開発を紹介でき、友人の発表に対して進んで質問したり応答したりすることができたか。(表現)
6 Improvement ○良かった点・改善点についての気づきの場面	15	発表をより良いものにするには？ ○「interactiveな発表」という視点で、各グループ内で良かった発表の様子を紹介し、その場面を全体に見せる。 ○それらを受けて、生徒は今後の課題について考え、ワークシートに記入する。 ○「発表中に困った場面」についてあげさせ、どうすれば乗り越えられるのかを考えさせる。教師からも提案する。	・どんな点が良かったか具体的に賞賛し、自分たちの発表に生かせるようにする。困った場面については、乗り越え方をできるだけ一般化し、次の機会に生かせるようにする。 ・自分の発表をよりよくするための方策を考え、リゾート紹介の発表をinteractiveに進めようと積極的に取組もうとすることができたか。(関心・意欲・態度)
7 Brush Up ○気づいたことをフィードバックさせる	5	グループ内の確認 ○代表生徒の発表について、reviewerの評価をもとに改善すべき点を話し合わせ、より良い発表になるよう練習を行わせる。	・次時の全体発表会でよりよい発表ができるように、机間指導の中で改善すべき点を伝える。

Let's Talk about "My Original Resort"!

Class() No.() Name()

～対話活動前～

★ My Personal Goal ★

※記入したら、partnerに渡して見てもらおう

～対話活動後①～

★ Peer Review ★ …友だちに記入してもらおう！

(A / B / C / D)

As a Speaker	①豊かに伝える	②聞き手の理解を深める	③かかわる
As a Listener	①反応する	②内容に関して質問する	③かかわる

As a Speaker	①豊かに伝える	②聞き手の理解を深める	③かかわる
As a Listener	①反応する	②内容に関して質問する	③かかわる

★ Evaluate the Pros and Cons ★ …内容に関する良さなども含めて
視点①…「互いが楽しめるプレゼン」であったか 視点③…発表全体で参考にしたいところ
視点②…speaker/listenerとして良かった点・改善点 視点④…より良くするための内容に関する改善点

※記入したら、本人に返して見てもらおう

～対話活動後②～

★ Attainment of My Goal ★ … A / B / C / D

★ Challenges for the Future ★

コミュニケーション活動自己(他者)評価シート

Class() No. () Name()

話し手として	自己評価	他者評価	聞き手として	自己評価	他者評価
いい換える…Paraphrase ・聞き手が知らない言葉は、英語で簡単な語に言い換えて伝えることができる。			もりあげる…Activate 話題に関して、発表者に関連質問をして話を活発にすることができる。		
かわる…Interact ・一方的に話すのではなく、聞き手とやりとりをしながら話を進めることができる。			かわる…Interact 発表者の問い合わせに対して積極的に応答を返すことができる。		
すねる…Ask ・聞き手に問いかけ、返事を求めることができる。			める…Interrupt ・話が理解できない時に、説明を中断させて説明を求めることができる。		
かせる…Deliver ・全ての部分を普通に話すのではなく、重要な部分をゆっくり大きく話し、必要なら繰り返し聞かせることができる。			コントロールする…Control ・発表者の声の大きさやわかりやすさについて、Could you speak up?などを使って指示することができる。		
つ明する…Explain ・Do you understand?など、聞き手の理解をチェックし、Yesの返事がなければさらに丁寧に説明する。説明で困った時は、教師に言い換えの援助を求めることができる			すねる…Ask ・分からぬ部分を発表者に聞き返すことができる。		
せる…Show ・聞き手が知らない言葉は絵やジェスチャーなどを用いて伝えることができる。			べる…Remark ・発表者の話に対して、簡単な感想を述べることができる。		
しかめる…Check ・OK?など、聞き手に理解できたか確かめながら話すことができる			らわす…Express ・分からぬとき、I don't understand.と言うことができる。		
語る…Talk ・原稿ではなく、聴衆を見て話すことができる。			ほんのうする…Respond ・発表者の発話に対してあいづちをうつことができる。		
A よくできた B ややできた C あまりできなかった D できなかった			イエス・ノー…Yes / No ・発表者の問い合わせに、Yes/Noで答えることができる。		
めを向ける…Look 			・発表者を見て聞くことができる。		

Presentation Keyword Sheet

Class() No.() Name()

①		②	
			
			
			
			
			
①		②	
			
			
			
			
			

V 常設的な活動で用いたワークシート

Let's make a story! (1)

～2年生～

Class() No() Name()

★対話が終わってから記入しよう！★ (ここではペアに聞き直してはいけません)

A: I want to [] .

B: No, no. You can't [] .

A: Why?

B: [] .

A: I see. Then [] .
それなら

B: That's a good idea!

★対話の前に調べた語(句)…調べたものは全て記入しよう！

★対話中に使った聞き返しやつっこんで聞いたこと、述べた感想など

J-E Card ①

~1年生~

1年 Class() No. () Name()

No.	Japanese	English	①	②	③	④	⑤
1	はい、どうぞ。	Here you are.					
2	ありがとうございます。	Thank you.					
3	どういたしまし	You're welcome.					
4	ごめんなさい。	I'm sorry.					
5	もう一度言って	Pardon?					
6	その通り！	That's right.					
7	本当？	Really?					
8	すみません。	Excuse me.					
9	私も。	Me, too.					
10	またねー。	See you.					
11	分かった？	You see?					
12	なるほど。	I see.					
13	ふーん。	Un-huh.					
14	すごいね！	Great!					
15	そうですよね。	Right?					
16	ええと…,	Well…					
17	まあまあだな。	So so.					
18	よくやったね！	Good job!					
19	あなたは何の本	What book do you like?					
20	あなたの好きな本は何ですか？	What's your favorite book?					
			Points				

VI 重要表現のwriting練習カード

J-E Card Writing ①

～1年生～

Class () No. () Name

No.	Japanese	English
1	おはようございます。	
2	私はエミです。	
3	あなたはグリーン先生ですか？－いいえ。	
4	初めまして、慎。	
5	こちらこそはじめまして。	
6	あなたはアメリカ出身ですか？－いいえ。	
7	私はカナダ出身です。	
8	これはあなたのノートです。	
9	カナダは私の国です。	
10	あれは私たちの教室です。	
11	これは公園ですか？－いいえ。	
12	それは大きい公園です。	
13	あれは学校ですか？－いいえ。	
14	こちらは私の友達マイクです。	
15	彼はオーストラリア出身です。	
16	彼女は私たちの新しい英語の先生です。	
17	私は音楽が好きです。	
18	私はギターも弾きます。	
19	あなたもピアノを弾きますか？－いいえ。	
20	あなたは毎日学校に来ますか？－いいえ。	
21	あなたは自転車で学校に来ますか？－いいえ。	
22	私は今、車を持っていません。	
23	あなたは車がほしいですか？－いいえ。	
24	私は歩くことが好きです。	
25	あなたは日本語を話しますか？－いいえ。	
26	これは何ですか？－それは鳥です。	
27	分かりません。	
28	それは動物ですか？－いいえ。	
29	あなたの好きな教科は何ですか？－数学です。	
30	それはとてもおもしろいです。	
		Points

VII 課題解決型で進める言語材料の学習例

★ A Birthday Present ★

～未来を表す表現～

Class() No() Name()

You are Tom.

<次の場面でペアと対話してみよう！>

あなたは中学2年生のTomです。これから対話をする相手、Mikeは友達です。来月は、もう1人の友達であるLucyの誕生日なのでプレゼントをしようと思っています。どんなものをあげようか考えていますが、何をあげたらいいか分かりません。Mikeなら、Lucyの欲しいものを知っているようです。情報を聞き出しましょう。

*あなた(Tom)から対話を始めます。

- 1 来月、Lucyにプレゼントをあげるつもりでいる、ということをMikeに伝えましょう。そして、何がいいと思うか聞きましょう。

*Mikeの話を聞いてから、

- 2 Mikeから情報を聞き出しました。それを買うつもりであるということをMikeに伝えましょう。

*Mikeの提案を聞いてから、

- 3 Mikeからよい提案がありました。その企画に参加(join)するつもりであるということを伝えましょう。さらに、①どこで会うつもりか、②何時に会うつもりか、③いくら持っていくつもりかを質問しましょう。(聞いたことを下にメモしよう！)

★会う場所・時刻

★持っていく予算

- 4 雷が鳴り出しました。今にも雨が降りそうです。しかしあなたは傘は持っていないません。

*Mikeの質問に答えましょう。

↓さらに続けて、

あなたは足には自信があります。走って帰るつもりであることを伝え、Mikeを安心させて別れましょう。(Good Endで！)

- 5 家(自分の机)に着きました。家の人に事情を話し、おこづかいをもらいましょう。今、あなたは￥500しか持っていないません。

★どう言いますか?書いてみましょう！

Ⅷ 本文の授業終了後のスキット作成活動

Unit5 Cell Phones - For or Against?

Class() No() Name()

★ Let's Make A Skit!!★

教科書では、最後に Mike が "I'm sorry, Mom." とあやまって終わっています。
今日は、あやまらずに他の言葉を言い、Mrs. Davis が "I see. OK." と言って終わるようにします。
ペアで最後の部分に入る文章を考えて、スキットを完成させましょう。

Mrs. Davis: I don't know why you use your cell phone at home.
This is much cheaper.

Mike:

Mrs. Davis: I see. OK.

★友達のスキットを聞いてみましょう★

それぞれのペアのスキットを聞いてみます。どんなスキットを最優秀にしたらよいと思いますか？

★ Best Skit in Our Class ★

Names: